

母となりの前二人組誰となれる、如此五十度が間段々乳母を廻す也、

〔楊弓射禮蓬矢抄〕凡鬪者文字或繪等爲驗、取鬪時以不合爲乳母、乳母之矢中時以二矢雍之、又乳母不中之時出懸二分也、又號笠者、同鬪之時一人中之時同鬪雖不中免取懸、

〔楊弓射禮蓬矢抄〕凡乳母之號者、童子之乳母之儀也、乳母者依禁姪奔寡也、仍似鰥鬪號乳母、又指之號呼下品乳母云指之故、

〔本朝世事談綺態〕楊弓

詰改一表、矢員二百本也、中所五十本以上は朱書、百本以上は泥書、百五十本以上金具、百八十以上大金貝と云、

〔東都歳事記〕五月廿五日楊弓結改總會、古板結界に作るは非なり、結改とは鬪を結び改るの謂なり、勝劣を争ひ、勝れたるを定て、江月一と稱す、結改一表、矢員二百本なり、中る所五十本以上は朱書、百本以上は泥書、百五十本以上は金貝、百八十本以上は大金貝といふ、其作法委しくは貞享五年刊する所の今井一中が作の楊弓射禮書を見て知るべし、この書は天文十八年述作の楊弓射禮蓬矢抄といへるに、注解を加へ、とことしく書つられたる物也、

〔東都歳事記〕三月廿五日、楊弓結改の惣會五月に同じ、

〔本朝世事談綺態〕楊弓

近年みやこ一中此道を得たり、一表二百本のこらす的中したりと云、此もの楊弓の書を編す、元祿の頃、芝に五郎未碩と云兩人の者、そのころの上手にて、百八十四五の矢員、江戸中詰改場の看板に記し、無雙の上手といへり、頃年は百八十四五は常の事にして、百九十四五あるひは七八におよぶ、しばらくのほどに、世人かくは上手になれり、

〔嬉遊笑覽〕六上、都一中、略、一中は上るりの外に楊弓の名手にて、一表二百のこらす的中たりとかや、されば一中といふ名は、もと楊弓のかたに付たる名なるべし、

名人